

新型コロナウイルス緊急事態措置が九州企業に与えた影響 —感染症拡大による業績予想の修正について—

金 川 一 夫
手 嶋 竜 二

〔要 旨〕

本研究の目的は、新型コロナウイルス緊急事態措置が九州の企業に与えた影響とその対応について明らかにすることである。そのために、感染症拡大による業績予想の修正を記載している企業について調査している。業績予想の修正を報告している企業のうち今回発表予想を明示している企業19社について、感染症拡大が売上高と当期純利益に及ぼしている影響についてまとめている。多くの企業が売上高と当期純利益ともに減少している。特に、売上高については、西日本鉄道が感染症の流行拡大に伴う出控えや、国内外の移動制限の影響を受けて59億円の減少、当期純利益については、梅の花が感染症の影響により売上高が前年同期間比62.7%と低迷したこと、店舗閉店等による減損損失16億円を計上したことなどにより、34億円の減少を示している。

はじめに

政府は新型コロナウイルス感染症（以下、感染症と省略する）のまん延のおそれが高いことから、2020年4月7日から緊急事態措置を実施し、同年5月25日に緊急事態解除宣言を発出している。解除されるまで、外出自粛や店舗の休業が響いた。経済産業省が同年6月29日発表した5月の商業動態統計速報によると、小売業販売額は前年同月比12.3%減の11兆650億円となった¹。品目別では、自動車が35.2%減と大きく減少した²。織物・衣服・身の回り品も店舗の臨時休業などで34.3%減少した³。業態別にみると、百貨店が64.1%減少した。スーパーは6.9%増加と4月の3.7%増加から増加幅が広がっている⁴（2020/06/29日本経済新聞）。

本研究の目的は、このような感染症が九州の企業に与えた影響とその対応について明ら

¹ 経済産業省 p. 3

² 経済産業省 p. 4

³ 経済産業省 p. 4

⁴ 経済産業省 p. 6

かにすることである。

1. 感染症と緊急事態措置の経緯

2020年1月9日に、中国国営中央テレビは中国の湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎について、中国政府が派遣した調査団が新型コロナウイルスを検出したと報じている⁵。3月11日に、世界保健機関（WHO：World Health Organization）のテドロス（Tedros Adhanom Ghebreyesus）事務局長は、世界で感染が広がる新型コロナウイルスについて「パンデミック（pandemic：世界的な大流行）とみなせる」と表明している⁶。

3月26日に、感染症のまん延のおそれが高いことが厚生労働大臣から内閣総理大臣に報告され、同日に政府対策本部が設置され⁷、4月7日に、政府対策本部長は緊急事態宣言を行っている。緊急事態措置を実施すべき期間は4月7日から5月6日までの29日間であり、緊急事態措置を実施すべき区域は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県とした。そして4月16日に、全都道府県について緊急事態措置を実施すべき区域としている。これらの区域において緊急事態措置を実施すべき期間は、4月16日から5月6日までとした⁸。感染状況の変化等について分析・評価は5月4日、14日、21日に行われ、さらに、5月25日に、改めて感染状況の変化等について分析・評価が行われて、「区域判断にあたっての考え方」を踏まえて総合的に判断したところ、全ての都道府県が緊急事態措置を実施すべき区域に該当しないこととなったため、同日、緊急事態解除宣言が発出されている⁹。

このように、2020年1月9日に中国で新型コロナウイルスが検出され、3月11日にWHOからパンデミックが表明されている。九州においても緊急事態措置が4月16日から5月25日まで実施されている。

2. 感染症拡大による業績予想の修正を記載している企業

九州の業況判断DI（Diffusion Index：景気動向指数）は表1に示される。2020年6月

⁵ 日本経済新聞2020年1月10日

⁶ 日本経済新聞2020年3月12日

⁷ 新型コロナウイルス感染症対策本部決定（2020）p.1

⁸ 新型コロナウイルス感染症対策本部決定（2020）p.2

⁹ 新型コロナウイルス感染症対策本部決定（2020）p.7

(最近)の九州全産業は△27%ポイントで、3月の調査△4%ポイントから23%ポイント悪化している。3月時点では非製造業の減少が18%ポイント悪化と著しい。しかし、6月(最近)は製造業が△31%ポイント(26%ポイント悪化)、非製造業が△24%ポイント(20%ポイント悪化)と、感染症の影響が製造業にも広がっている。9月までの先行きについては、製造業・非製造業とも更に悪化する見通しになっている¹⁰。

表1 業況判断(九州・沖縄)

(「良い」－「悪い」、%ポイント)

	19/6月	19/9月	19/12月	20/3月	20/6月 前回予測	最近	変化幅	20/9月 先行き	変化幅
[九州]									
製造業	5	2	△2	△5	(△15)	△31	△26	△32	△1
非製造業	17	18	14	△4	(△16)	△24	△20	△30	△6
九州全産業	12	13	9	△4	(△16)	△27	△23	△30	△3
[全国]									
製造業	3	△1	△4	△12	(△22)	△39	△27	△40	△1
非製造業	14	14	11	1	(△14)	△25	△26	△28	△3
全国全産業	10	8	4	△4	(△18)	△31	△27	△34	△3

出所) 日本銀行福岡支店「九州・沖縄 企業短期経済観測調査」(2020年6月) 2020年7月1日
(<https://www.3.boj.or.jp/fukuoka/>)

6月(最近)の全国全産業は△31%ポイントで、3月の調査△4%ポイントから27%ポイント悪化している。3月時点では製造業の減少が8%ポイント悪化であるが、非製造業の減少は10%ポイント悪化と大きい。しかし、6月(最近)は製造業が△39%ポイント(27%ポイント悪化)、非製造業が△25%ポイント(26%ポイント悪化)と、感染症の影響が九州よりも大きくなっている。しかし、9月までの先行きについては、九州の非製造業は全国よりも悪化する見通しが大きくなっている。

(1) 業績予想修正企業

感染症拡大による業績予想の修正を記載している九州の企業は表2に示される¹¹。

表2に示されるように、感染症の拡大の経済環境への影響により、住宅、ブライダル、冷凍食品、クリーニングなど様々な業種の企業が業績予想を修正している。

¹⁰ 九州経済調査月報 p. 32

¹¹ 鳥越製粉、グランディーズ、アメイズ、ホープ、三井ハイテック、グリーンランドリゾート、ジョイフルも新型コロナウイルス感染症拡大による業績予想の修正を記載しているが、今回発表予想を未定としている。安川電機は国際財務報告基準(IFRS)を適用したため、前回発表予想が記載されていない。

表2 感染症拡大による業績予想の修正を記載している企業

会社名	上場取引所	本社所在地	日経 NEEDS 業種	決算月
Lib Work	東京マ 福岡 Q	熊本県山鹿市	戸建て住宅	6
アイ・ケイ・ケイ	東 1	福岡県糟屋郡	ブライダル関連サービス	10
五洋食品産業	T PRO	福岡県糸島市	製菓、冷凍食品	5
きよくとう	ジャスダック	福岡市博多区	クリーニング・リネンサプライ	2
トランスジェニック	東京マ	福岡市中央区	臨床検査受託、バイオ創薬	3
大英産業	福岡	北九州市八幡西区	マンション開発・分譲、戸建て住宅	9
トラスト HD	東京マ 福岡 Q	福岡市博多区	駐車場運営、マンション開発・分譲	6
cotta	東京マ 福岡 Q	大分県津久見市	容器・包装梱包資材卸	9
力の源 HD	東 1	福岡市中央区	ラーメン・中華料理店、乾麺・生麺	3
岡野バルブ製造	東 2 福岡	北九州市門司区	バルブ・パイプ・継手	11
ジェイリース	東 1	大分県大分市	信用保証・再保険、不動産仲介	3
システムソフト	東 1	福岡市中央区	システム受注・ソフト開発（一般）、 専門情報サイト	9
梅の花	東 2 部	福岡県久留米市	レストラン・ダイニングバー	4
ハンズマン	ジャスダック	宮崎県都城市	ホームセンター	6
マツモト	ジャスダック	北九州市門司区	印刷・製版	4
ミスターマックス HD	東 1 福岡	福岡市東区	ディスカウントストア	2
はせがわ	東 1 福岡	福岡市博多区	葬祭関連サービス、家具・インテリア ショップ	3
西日本鉄道	東 1 福岡	福岡市博多区	鉄道、バス・タクシー、スーパーマー ケット、国際貨物	3

出所) 日本経済新聞社「日経テレコン」(<https://t21.nikkei.co.jp/g3/CMNDF11.do>) を2020年7月21日検索

注) HD: ホールディングス、東1: 東京第1部、東2: 東京第2部、東京マ: 東京マザーズ、ジャスダック: ジャスダック (スタンダード)、T PRO: TOKYO PRO Market、福岡Q: 福岡Q-board

(2) Lib Work (2020年5月14日)

Lib Work の業績予想修正は表3に示される。修正の理由について、「感染拡大に伴う緊急事態宣言及び各自治体からの外出自粛要請により、建築確認申請や住宅ローン融資の審査の遅れなどによる着工物件の遅延が生じていることに加え、住宅ローンや登記の一連の手続きの遅れにより、2020年6月引渡し予定の物件が来期に延期となり、予定していた当期の売上が計上できない可能性が高まりました。加えて経済指標や不動産需要の悪化などにより棚卸資産の評価を見直し、販売用不動産の評価損を計上いたしました」と述べている¹²。

修正の主な理由は、緊急事態宣言により当期引渡し予定の物件が次期に延期となり、当期の売上が計上できない可能性が高まったことである。売上高が22億1千万円減少(26.9%

¹² 株式会社 Lib Work 「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月14日

表3 Lib Work 業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	8,200	5,994	△2,206	△26.9%	6,597
営業利益	690	110	△580	△84.1%	532
経常利益	700	130	△570	△81.4%	573
当期純利益	462	85	△377	△81.6%	391
1株当たり当期純利益	87.04	16.01			77.22

出所) 株式会社 Lib Work 「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月14日

注) 2020年6月期通期個別業績予想数値の修正 (2019年7月1日～2020年6月30日)

減) するために、当期純利益は3億8千万円減少(81.6%減)を予測している。

(3) アイ・ケイ・ケイ (2020年5月28日)

アイ・ケイ・ケイの業績予想値と実績との差異は表4に示される。第2四半期連結業績予想値と実績との差異及び通期連結業績予想値の修正の理由について、「2020年2月から本格的に流行し始めた感染拡大の影響に加え、政府による4月7日の『緊急事態宣言』の発令を踏まえ、お客さまと社員の安全・安心を最優先事項とし、同宣言エリアの店舗では、挙式・披露宴の施行を翌4月8日から5月31日まで休止することを決定いたしました。結果として、当社婚礼事業において、挙式・披露宴を延期されるお客さまが増加し、当社としては、感染拡大防止への社会的責任を踏まえ、挙式・披露宴の延期に係る費用は原則いただかず、最大限お客さまのご要望にお応えできるよう努めてまいりました。上記の動向を踏まえ、全社的なコスト削減に努めることで業績の改善を図ったものの、2020年10月期第2四半期連結累計期間の売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想を下回って推移いたしました。また、2020年10月期通期連結業績におきましても、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに予想を下回ることが予測されるものの、現時点では同感染症の収束時期の見通しが立たず、婚礼事業の業績予想の算定が困難なため、2019年12月13日に公表いたしました当社の連結業績予想は一旦取り下げ『未定』とさせていただきます。今後、合理的な業績予想の算定が可能となった段階で改めて公表いたします」と述べている¹³。

修正の主な理由は、緊急事態宣言により、同宣言エリアの店舗では、挙式・披露宴の施行を休止することになり、挙式・披露宴の延期が増加したため、第2四半期連結累計期間の実績は予想を下回ったことである。また、現時点では感染症の収束時期の見通しが立た

¹³ アイ・ケイ・ケイ株式会社「2020年10月期第2四半期の連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正、並びに配当予想の修正に関するお知らせ」2020年5月28日、p.2

表4 アイ・ケイ・ケイ連結業績予想値と実績の差異

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回公表実績	増減額	増減率	前四半期実績
売上高	9,260	7,376	△1,883	△20.3%	9,031
営業利益	260	△589	△849	—	418
経常利益	270	△575	△845	—	429
親会社株主に帰属する 四半期純利益	180	△436	△616	—	281
1株当たり当期純利益	6.03	△14.67			9.49

出所) アイ・ケイ・ケイ株式会社「2020年10月期第2四半期の連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正、並びに配当予想の修正に関するお知らせ」2020年5月28日、p.1

注) 2020年10月期第2四半期(累計)連結業績予想値と実績の差異(2019年11月1日～2020年4月30日)

ず、婚礼事業の業績予想の算定が困難なため、通期連結業績は「未定」としている。売上高が19億円減少(20.3%減)したために、四半期純利益は6億2千万円減少(当期純損失)している。

(4) 五洋食品産業(2020年7月10日)

五洋食品産業の業績予想修正は表5に示される。修正の理由について、「売上高は、感染症の拡大を受け、緊急事態宣言が発令された4月から5月にかけて売上減少が顕著になり、とりわけ当社の主力販売チャネルであります『飲食店等(プロ)向け業務用スイーツ事業(業務用チャネル)』への影響が大きく、売上高増減額△174百万円のうち、70%以上を占める△127百万円が4月から5月に集中するなど、感染症の影響等を受けた結果、通期業績予想を下回ることとなりました。また利益については、工場を進めてきました業務改善、技術研修等による社員の熟練度向上の効果が徐々に現れ、製造原価の低減による売上原価の改善が図られました。さらに販売管理費では、販売促進費及び物流費の圧縮により利益を押し上げた結果、営業利益、経常利益及び当期純利益は通期業績予想を上回ることとなりました」と述べている¹⁴。

表5 五洋食品産業業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	2,218	2,044	△174	△7.9%	2,132
営業利益	47	65	17	37.1%	18
経常利益	19	49	29	151.8%	0
当期純利益	18	43	24	132.2%	26
1株当たり当期純利益	10.36	24.06			14.55

出所) 五洋食品産業株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月10日

注) 2020年5月期通期業績予想数値の修正(2019年6月1日～2020年5月31日)

修正の主な理由は、緊急事態宣言により業務用チャンネルへの影響が大きく、売上高が通期業績予想を下回ることとなったが、社員の熟練度向上の効果による売上原価の改善、販売促進費及び物流費の圧縮により利益を押し上げた結果、営業利益、経常利益及び当期純利益は通期業績予想を上回ることとなっている。売上高が1億7千万円減少（7.9%減）するが、当期純利益は2千万円増加（132.2%増）を予測している。

(5) きょくとう（2020年4月10日）

きょくとうの業績予想修正は表6に示される。修正の理由について、「当クリーニング業界は、需要の減少や人手不足への対応など厳しい経営環境で推移しております。このような状況の中、当社は、M&Aや新しい看板デザインでの店舗リニューアル、新商品『スニーカークリーニング』サービスのスタートなど、積極的な投資活動を行う一方で、不採算店の閉鎖や工場・プラントの統合など、諸々の施策に取り組みましたが、売上高につきましては、暖冬の影響で重衣料の入荷が少なかったこと、春場の最需要期に超大型連休へ家計支出が流れたこと、また、夏場から天候不順や記録的な台風続きで店頭持ち込み機会を失ったこと、消費増税による家庭の支出抑制、感染回避のための外出自粛などの影響も加わり、予想値に比べ381百万円（予想値比5.4%）の減収となりました。利益につきましては、売上高の減少と前述の投資費用と不採算店の閉鎖や工場・プラントの統合に伴う一時費用や人件費が増加したことなどにより、営業利益は予想値に比べ163百万円（予想値比66.9%）の減益、経常利益は予想値に比べ178百万円（予想値比50.9%）の減益、当期純利益は、特別損失として上記の減損損失と投資有価証券評価損の計上を見込むなど、予想値と比べ168百万円（予想値比77.2%）の減益となる見込みです」と述べている¹⁵。

修正の主な理由は、2019年の消費増税による支出抑制などに加えて、2020年の感染回避

表6 きょくとう業績予想修正

（単位：百万円、円 銭）

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	7,000	6,618	△381	△5.4%	6,679
営業利益	245	81	△163	△66.9%	221
経常利益	350	171	△178	△50.9%	332
当期純利益	218	49	△168	△77.2%	120
1株当たり当期純利益	41.43	9.46	-	-	22.93

出所) 株式会社きょくとう「特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」2020年4月10日
注) 当期の業績予想数値の修正（2019年3月1日～2020年2月29日）

¹⁴ 五洋食品産業株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月10日

¹⁵ 株式会社きょくとう「特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」2020年4月10日

のための外出自粛などの影響で売上高が減少したこと、投資費用と不採算店の閉鎖や工場・プラントの統合に伴う一時費用や人件費が増加したことなどである。売上高が3億8千万円減少（5.4%減）したために、当期純利益は1億7千万円減少（77.2%減）を予測している。

(6) トランスジェニック（2020年4月3日）

トランスジェニックの業績予想修正は表7に示される。修正の理由について、売上高に関して「CRO¹⁶事業におきましては、感染症の影響で、2020年3月に予定していた非臨床試験受託用の動物輸入が来期以降に延期となり非臨床試験が計画通り進まなかったこと、中国の提携ラボで実施している受託試験が2月以降計画通り実施できず当初完了予定の3月から大幅に遅延することとなったこと、また、国内で実施している一部の当期完了予定であった臨床試験が3月以降延期となり当期に完了できなくなったことにより、第4四半期連結会計期間の売上高は、2020年2月7日付の公表（以下、『前回公表』といいます）予想における計画値を約100百万円下回り約600百万円となり、通期の売上高も同額下回り約1,900百万円となる見通しとなりました。一方、TGBS事業¹⁷のうちEコマース事業におきましては、年末商戦以降の好調を維持した他、TGBS事業のうち『その他』事業においても、(株)TGMをはじめとした各社で売上高が堅調に推移したことにより、第4四半期連結会計期間の売上高は、前回公表予想における計画値を約400百万円上回り約2,100百万円となり、通期の売上高も同額上回り約8,100百万円となる見通しとなりました。その結果、第4四半期連結会計期間の連結売上高は、前回公表予想における計画値を約300百万円上回り約2,900百万円となり、通期の連結売上高も同額上回り約10,800百万円となる見通しとなりました」さらに、営業利益及び経常利益に関して「CRO事業におきましては、(株)安評センターで受注獲得体制を早期に強化するため、より一層前倒しで進めてきた設備及び人材に対する投資に係る固定費の発生額は、前回公表時の想定通りの見通しであります。上記の通り売上高が前回公表予想を下回った結果、その固定費の回収が想定通り進まず、営業利益につきましても前回公表時の見通しと比較して約80百万円下回ることとなりました。一方、TGBS事業におきましては、上記のとおり前回公表予想を約400百万円上回る売上見通しとなったことから、営業利益につきましても前回公表時の見通しと比較して約20百万円程度の増益となりましたが、CRO事業の落ち込みをカバーするには至りま

¹⁶ Contract Research Organization（医薬品開発業務受託機関）

¹⁷ TGBS：11TGビジネスサポート

せんでした」と述べている¹⁸。

表7 トランスジェニック業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	10,500	10,800	300	2.9%	8,674
営業利益	200	140	△60	△30.0%	270
経常利益	140	70	△70	△50.0%	256
親会社株主に帰属する 当期純利益	80	△450	△530	—	202
1株当たり当期純利益	4.61	△25.91			11.95

出所) 株式会社トランスジェニック「特別損失等の計上による通期業績予想の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ」2020年4月3日 p. 2.

注) 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

修正の主な理由は、CRO事業では、感染症の影響で非臨床試験受託用の動物輸入が延期となったことなどにより、通期の売上高は1億円下回り19億円となっている。TGBS事業では、年末商戦以降の好調を維持したことなどにより、通期の売上高は4億円上回り81億円となる見通しとなっている。このように売上高は3億円増加(2.9%増)するが、当期純利益は5億3千万円減少(当期純損失)を予測している。

(7) 大英産業 (2020年5月13日)

大英産業の業績予想修正は表8に示される。修正の理由について、「分譲マンション事業に関しましては、2020年9月期に想定した売上額の107%が既に契約完了しておりますが、2020年9月に竣工及び引渡しを予定した大型分譲マンション等の物件の引渡しに関して、同時期までに完全なる感染症の終息宣言には至らないと判断し、お客様、当社従業員並びに関係業者への感染リスクを回避する観点から、一極集中を避け、今期末及び翌期第1四半期にかけて引渡しを分散することとしたため、当初売上高より大幅に減少する予想となりました。また、分譲住宅事業に関しましては、感染症の影響により建築もしくは受注の遅れを考慮した結果、売上高が減少する予想となりました。利益面に関しては、全セグメントの売上高の減少に伴い、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益ともに減少する予想となりました。本件に関しましては、本資料発表日現在における契約受注残及び直近2ヶ月の販売状況等を考慮した通期の業績予想としております。なお、今後多方面からの感染症による影響は払拭できず、更なる緊急事態宣言の延長などで、建築

¹⁸ 株式会社トランスジェニック「特別損失等の計上による通期業績予想の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ」2020年4月3日 p. 2.

及び売上等の影響を受けることも考えられるため、業績予想修正が必要となった場合は速やかに公表させていただきます」と述べている¹⁹。

表 8 大英産業業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	31,329	26,491	△4,838	△15.4%	30,220
営業利益	1,600	599	△1,001	△62.6%	1,979
経常利益	1,305	339	△966	△74.0%	2,031
親会社株主に帰属する 当期純利益	901	205	△696	△77.2%	1,259
1株当たり当期純利益	276.9	62.76	-	-	413.85

出所)大英産業株式会社「第2四半期業績予想、通期業績予想及び期末配当予想修正に関するお知らせ」2020年5月13日 p.2.

注)2020年9月期(2019年10月1日～2020年9月30日)連結業績予想の修正

修正の主な理由は、2020年9月期に竣工及び引渡しを予定した大型分譲マンション等の物件の引渡しに関して、同時期までに完全なる感染症の終息宣言には至らないと判断し、今期末及び次期第1四半期にかけて引渡しを分散すること、分譲住宅事業に関して、感染症の影響により建築・受注の遅れを考慮したためである。売上高が48億円減少(15.4%減)したために、当期純利益は7億円減少(77.2%減)を予測している。

(8) トラストホールディングス(2020年6月12日)

トラストホールディングスの業績予想修正は表9に示される。修正の理由について、「感染拡大に伴う外出等の自粛により、人の移動及び経済活動が大幅に制限され、当社が運営する駐車場につきまして、特に令和2年4月から5月にかけて稼働状況が大きく低下いたしました。以上の結果、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきまして、前回発表予想を下回る見込みとなったため、業績予想を修正することになりました」と述べている²⁰。

修正の主な理由は、感染拡大に伴う外出等の自粛により、運営する駐車場の稼働状況が大きく低下したためである。売上高が15億円減少(10.0%減)したために、当期純利益は3億4千万円減少(当期純損失)を予測している。

¹⁹ 大英産業株式会社「第2四半期業績予想、通期業績予想及び期末配当予想修正に関するお知らせ」2020年5月13日 p.3.

²⁰ トラストホールディングス株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月12日

表9 トラストホールディングス業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	15,000	13,500	△1,500	△10.0%	13,963
営業利益	630	200	△430	△68.3%	522
経常利益	500	140	△360	△72.0%	455
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	△60	△340	—	197
1株当たり当期純利益	58.5	△12.53	—	—	41.27

出所) トラストホールディングス株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月12日

注) 2020年6月期通期連結業績予想の修正(2019年7月1日～2020年6月30日)

(9) cotta (2020年5月15日)

cottaの業績予想修正は表10に示される。修正の理由について、「第1四半期連結会計期間(2019年10月1日～2019年12月31日)は、前連結会計年度終盤(2019年9月)にかけて消費増税に伴う駆け込み需要があったことの反動、子会社の業績の低迷、ならびに当社が『キャッシュレス・消費者還元事業』の対象外事業者であることなど、当社を取り巻く事業環境がここ最近になく非常に厳しかったことから、クリスマス商戦でも回復できず、減収減益の決算を余儀なくされました。第2四半期連結会計期間(2020年1月1日～2020年3月31日)になりまして、当社のインターネット通販サイト「cotta」初のテレビCMを九州の一部地域にて放映いたしました。それにより、バレンタイン需要期(1/20～2/14)における新規会員登録件数が過去最高を記録し、売上も順調に推移するなど、一定の効果を得ることができました。しかしながら、バレンタイン商戦が終わるとともに、感染症が国内でも徐々に拡大しつつあり、予断を許さない状況でありました。このような状況下で、当社グループは、2020年3月13日に2020年9月期を初年度とする中期経営計画(2020年9月期～2024年9月期)を策定し、同日公表いたしました」と述べている²⁾。

表10 cotta 業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	6,542	6,595	53	0.8%	6,399
営業利益	△31	19	51	—	317
経常利益	△9	43	53	—	350
親会社株主に帰属する 当期純利益	△7	31	39	—	225
1株当たり当期純利益	△0.73	2.87	—	—	20.78

出所) 株式会社 cotta「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日

注) 2020年9月期通期連結業績予想数値の修正(2019年10月1日～2020年9月30日)

修正の主な理由は、売上も順調に推移したバレンタイン商戦が終わるとともに、感染症が国内でも徐々に拡大しつつあり、予断を許さない状況であったためである。売上高が5千3百万円増加（0.8%増）したために、当期純利益は3千9百万円増加（当期純損失から当期純利益）を予測している。

(10) 力の源ホールディングス（2020年4月14日）

力の源ホールディングスの業績予想修正は表11に示される。修正の理由について、「当連結会計年度の通期業績予想につきましては、主に感染症拡大による休業等により店舗売上が減少したことによる影響で、営業利益及び経常利益は前回予想を下回る見込みとなりました。また、本日公表いたしました『特別損失（減損損失）の計上に関するお知らせ』のとおり、『固定資産の減損に係る会計基準』に基づき、収益性の低下が見込まれる国内外の店舗（合計15店舗）並びにノンコア事業の固定資産について、減損損失770百万円等の特別損失の発生を見込んでおります。以上の結果、非支配株主に帰属する当期純損失も考慮いたしまして、親会社株主に帰属する当期純利益は220百万円の損失となる見込みであります」と述べている²²。

表11 力の源ホールディングス業績予想修正

（単位：百万円、円 銭）

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	30,010	29,000	△1,010	△3.4%	27,466
営業利益	1,150	680	△470	△40.9%	957
経常利益	1,072	600	△472	△44.0%	922
親会社株主に帰属する 当期純利益	700	△220	△920	—	615
1株当たり当期純利益	29.69	△9.28	—	—	26.26

出所) 株式会社力の源ホールディングス「2020年3月期連結業績予想の修正、期末配当予想の修正、及び役員報酬等の減額等に関するお知らせ」2020年4月14日

注) 2020年3月期連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

修正の主な理由は、感染症拡大による休業等により店舗売上が減少したことである。売上高が10億1千万円減少（3.4%減）したために、当期純利益は9億2千万円減少（当期純損失）を予測している。

²¹ 株式会社 cotta「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日

²² 株式会社力の源ホールディングス「2020年3月期連結業績予想の修正、期末配当予想の修正、及び役員報酬等の減額等に関するお知らせ」2020年4月14日

(11) 岡野バルブ (2020年6月17日)

岡野バルブの業績予想修正は表12に示される。修正の理由について、「発電プラント用バルブの製造販売およびメンテナンスを主要事業とする当社グループにおきましては、主に原子力関連において受注済案件の売上計上時期が流動的であり、また、感染症の影響も相俟って、正確な業績予想が困難な状況にあります。このような状況の下、当第2四半期連結累計期間における業績は、感染症の影響に伴い国内外の営業活動が制限されたため、主にバルブ事業において当初予定しておりました売上計画の一部が延伸となり、また、生産量減少にも影響し工場操業度が低下しております。これらのことから、売上高・利益面ともに業績予想数値を下回る見込みとなりましたので、第2四半期連結および個別の業績予想数値を修正するものであります。なお、通期につきましても、売上高・利益面ともに、当初の予想を下回る見込みとなりましたので、上記のとおり修正いたします」と述べている²³。

表12 岡野バルブ業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	7,000	6,340	△660	△9.4%	6,602
営業利益	50	△60	△110	—	△797
経常利益	90	△10	△100	—	△735
当期純利益	65	△30	△95	—	△924
1株当たり当期純利益	37.61	△17.37	—	—	△533.76

出所) 岡野バルブ製造株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月17日

注) 2020年11月期通期個別業績予想数値の修正 (2019年12月1日～2020年11月30日)

修正の主な理由は、感染症の影響に伴い国内外の営業活動が制限され、主にバルブ事業において売上計画の一部が延伸となり、また工場操業度が低下したことである。売上高が6億6千万円減少(9.4%減)したために、当期純利益は9千5百万円減少(当期純損失)を予測している。

(12) ジェイリース (2020年5月1日)

ジェイリースの業績予想修正は表13に示される。修正の理由について、「2020年3月期においては、2019年11月より販売開始いたしました『Sシリーズ』(審査精度向上等を目的に膨大な個人信用情報データベースを与信審査へ活用した商品の総称)及び事業者向けプラン『J-AKINAI』が順調に推移いたしました。将来的な貸倒コストや訴訟関連費用

²³ 岡野バルブ製造株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月17日

を抑制するため与信審査の強化、取引先の選別等の実施による影響、更には感染症の拡大に伴う申込数の減少もあり、売上高は対前期比10.9%増加となったものの、計画を下回る見込みとなりました」と述べている²⁴。

表13 ジェイリース業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	7,050	6,744	△306	△4.3%	6,082
営業利益	270	155	△115	△42.6%	△101
経常利益	220	105	△115	△52.3%	△146
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	24	△126	△84.0%	△149
1株当たり当期純利益	17.06	2.75	—	—	△17.0

出所) ジェイリース株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月1日

注) 2020年3月期連結業績予想値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

修正の主な理由は、将来的な貸倒コストや訴訟関連費用を抑制するため与信審査の強化、取引先の選別等の実施による影響、感染症の拡大に伴う申込数の減少などである。売上高が3億1千万円減少(4.3%減)したために、当期純利益は1億3千万円減少(84.0%減)を予測している。

(13) システムソフト (2020年5月15日)

システムソフトの業績予想修正は表14に示される。修正の理由について、「売上高につきましては、主要セグメントであるシステムソリューション事業は予定どおり推移しているものの、マーケティング事業のWebマーケティングにて、アルゴリズムの変遷により、外部施策内容の変更に伴いSEO業務を一部縮小しております。当初の予想より400百万円減少し、売上高は3,100百万円を見込んでおります。子会社株式会社アライアンステクノロジー²⁵による投資事業において感染拡大に伴い欧米を中心に経済活動が長期に渡り停止した事により今後の見通しが不透明な状況を踏まえ、保有している国外株式について65百万円を減損損失(投資有価証券評価損)にて原価計上しております。そのため営業利益は当初予想より130百万円減少し、20百万円、経常利益は90百万円減少し、10百万円を見込んでおります。当期純利益については、272百万円を特別損失(投資有価証券評価損)として計上したため、連結当期純利益は△410百万円を見込んでおります」と述べている²⁶。

²⁴ ジェイリース株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月1日

²⁵ アライアンステクノロジーはシステムソフトの事業分野に関連した投資事業を行っている。

²⁶ 株式会社システムソフト「特別損失(投資有価証券評価損)の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日

表14 システムソフト業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	3,500	3,100	△400	△11.4%	3,000
営業利益	150	20	△130	△86.7%	153
経常利益	100	10	△90	△90.0%	85
親会社株主に帰属する 当期純利益	10	△410	△420	—	△1,724
1株当たり当期純利益	0.15	△6.02	—	—	△25.38

出所) 株式会社システムソフト「特別損失(投資有価証券評価損)の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日

注) 2019年9月期通期連結業績予想数値の修正(2019年10月1日~2020年9月30日)

修正の主な理由は、マーケティング事業のWebマーケティングにおいて、アルゴリズムの変遷により、外部施策内容の変更に伴いSEO業務²⁷を一部縮小していること、子会社アライアンステクノロジーによる投資事業において感染拡大に伴い欧米を中心に経済活動が長期に渡り停止した事により、保有している国外株式について減損損失を原価計上したことなどである。売上高が4億円減少(11.4%減)したために、当期純利益は4億2千万円減少(当期純損失)を予測している。

(14) 梅の花(2020年7月13日)

梅の花の業績予想修正は表15に示される。修正の理由について、「連結業績予想につきましては、第4四半期の2月から、感染症の影響により売上高が前年同期間比62.7%と低迷したため、営業利益及び経常利益は計画を下回る見込みであります。また、固定資産等の減損処理1,202百万円の増加、感染症関連費用589百万円、連結子会社ののれんの一括償却218百万円等の影響により、親会社株主に帰属する当期純利益は計画を下回る見込みであります。個別業績予想につきましては、子会社への貸倒引当金繰入額1,403百万円の増加等により経常利益が計画よりも下回り、また、関係会社株式評価損1,391百万円等により当期純利益が計画を下回る見込みであります」と述べている²⁸。さらに、2020年4月期連結累計期間の特別損失の計上について、「特別損失の計上につきましては、店舗閉店等による減損損失1,561百万円、感染症関連費用589百万円、連結子会社ののれんの一括償却

²⁷ SEOは検索エンジン最適化(Search Engine Optimization)の省略である。外部施策とは優良な被リンクを集めること、内部施策とはユーザーに価値あるコンテンツを提供し、適正に検索エンジンにページ内容を理解・評価されるよう技術的にWebページを最適化することである。

²⁸ 株式会社システムソフト「特別損失(投資有価証券評価損)の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日

218百万円、第三者委員会等の設置関連費用196百万円等により2,652百万円が発生する見込みであります。」と述べている²⁹。

表15 梅の花業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	33,859	30,462	△3,397	△10.0%	-
営業利益	237	△1,238	△1,476	-	-
経常利益	140	△1,361	△1,501	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,025	△4,391	△3,366	-	-
1株当たり当期純利益	△128.12	△548.48	-	-	-

出所) 株式会社梅の花「業績予想値の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」2020年7月13日 p.1. 注) 2020年4月期連結業績予想数値の修正、注として、「2019年4月期は、決算期変更により2018年10月1日から2019年4月30日までの7ヶ月間となっております。このため、前期実績の記載は省略いたします。」と述べている。

修正の主な理由は、感染症の影響により売上高が低迷し、固定資産等の減損処理の増加、感染症関連費用、連結子会社ののれんの一括償却等の影響により、当期純利益が計画を下回ったことである。売上高が34億円減少(10.0%減)したために、当期純利益は34億円減少(当期純損失)を予測している。

(15) ハンズマン (2020年5月11日)

ハンズマンの業績予想修正は表16に示される。修正の理由について、「当第3四半期累計期間における感染症の影響は軽微でありましたが、感染拡大が続く中、4月に入り緊急事態宣言が発令されるなど事態が深刻化し、終息時期が見通せない状況となっております。当社においてはお客様と従業員の安全と感染拡大防止を最優先に考えた店舗運営に努めておりますが、4月以降の以下のような取り組みが影響し、売上高が当初の計画を下回る見込みとなりました。

- ① ゴールデンウィーク期間等の全店臨時休業(4月26日及び4月29日～5月6日)
- ② 福岡県内2店舗の営業時間の短縮(4月10日～5月8日)
- ③ 大型イベント(ガラクタ市)の開催自粛(例年4月に開催)
- ④ 折込チラシによる特売セール自粛(4月中旬以降)

今回の修正予想は上記の③と④が2020年6月30日まで続く前提で作成しております。経費につきましては広告宣伝費等、当初の計画よりも減少する見込みであります。売上高

²⁹ 株式会社梅の花「業績予想値の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」2020年7月13日 pp.1-2.

が計画を下回る影響が大きく、営業利益、経常利益、当期純利益につきましても計画を下回る見込みとなりました」と述べている³⁰。

表16 ハンズマン業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	31,650	30,000	△1,650	△5.2%	31,209
営業利益	2,104	1,824	△280	△13.3%	2,073
経常利益	2,333	2,046	△287	△12.3%	2,299
当期純利益	1,595	1,407	△188	△11.8%	1,540
1株当たり当期純利益	111.89	98.69	-	-	107.77

出所) 株式会社ハンズマン「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月11日 p.1.

注) 2020年6月期通期個別業績予想数値の修正 (2019年7月1日～2020年6月30日)

修正の主な理由は、4月に入り緊急事態宣言が発令されるなど事態が深刻化し、全店臨時休業、営業時間短縮、大型イベント開催自粛、特売セール自粛などのような取り組みが影響したことである。売上高が16億5千万円減少(5.2%減)したために、当期純利益は1億9千万円減少(11.8%減)を予測している。

(16) マツモト (2020年6月1日)

マツモトの業績予想修正は表17に示される。修正の理由について、「売上高につきましては、前回予想では、学校アルバム部門が2,100百万円、一般商業印刷部門が800百万円の計2,900百万円でありました。このうち、学校アルバム部門は前回のとおり2,100百万円となる見込であります。このうち、学校アルバム部門は前回のとおり2,100百万円となる見込であります。この要因は、ペーパーレス化の進展に加え、感染症流行による経済活動緊縮の影響を受け、一般商業印刷部門における最需要期である3月(年度末)の印刷需要が大きく落ち込んだことなどによるものであります。一方、費用につきましては、製造原価、販管費ともにコストダウンにつとめましたが、現在の当社は固定費率が高いため、上記の売上減少分の80百万円の大部分が損益に反映され、前回予想に比べ営業利益が60百万円、経常利益が62百万円、それぞれ減少する見込であります。当期純利益は特別利益として投資有価証券売却益20百万円を計上いたしますが、前回予想に比べ12百万円減少の8百万円となる見込であります」と述べている³¹。

修正の主な理由は、ペーパーレス化の進展に加え、感染症流行による経済活動緊縮の影響を受け、一般商業印刷部門における最需要期である3月の印刷需要が大きく落ち込んだ

³⁰ 株式会社ハンズマン「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月11日 p.1.

³¹ 株式会社マツモト「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月1日

表17 マツモト業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	2,900	2,820	△80	△2.8%	2,835
営業利益	30	△30	△60	—	△71
経常利益	60	△2	△62	—	△44
当期純利益	20	8	△12	△60.0%	△49
1株当たり当期純利益	52.99	21.19	—	—	△132.28

出所) 株式会社マツモト「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月1日

注) 2020年4月期通期個別業績予想数値の修正(2019年5月1日～2020年4月30日)

ことなどである。売上高が8千万円減少(2.8%減)したために、当期純利益は1千2百万円減少(60.0%減)を予測している。

(17) ミスターマックス・ホールディングス(2020年7月14日)

ミスターマックス・ホールディングスの業績予想修正は表18に示される。修正の理由について、「当第1四半期累計期間について、感染症拡大に伴い全国的に外出自粛が広がるなか、巣籠り消費に関連した商品群や感染症対策商品の売り上げが伸び、営業収益が計画を上回りました。一方経費面では、売上増加などにより人件費の増加があったものの、お客様の集中を避けるための販促の見直しやウェブ会議の活用などのコスト削減を実行したことで、当初の計画内で進捗しました。その結果、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益ともに計画を大きく上回りました」と述べている³²。

表18 ミスターマックス・ホールディングス業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
営業収益	122,684	125,696	3,012	2.5%	122,319
営業利益	2,560	3,387	827	32.3%	2,450
経常利益	2,348	3,216	868	37.0%	2,238
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,609	2,153	544	33.8%	1,321
1株当たり当期純利益	48.47	64.86	—	—	39.8

出所) 株式会社ミスターマックス・ホールディングス「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月14日

注) 2020年2月期通期連結業績予想数値の修正(2019年3月1日～2020年2月29日)

修正の主な理由は、感染症拡大に伴い全国的に外出自粛が広がるなか、巣籠り消費に関連した商品群や感染症対策商品の売り上げが伸びたことである。売上高が30億1千万円増

³² 株式会社ミスターマックス・ホールディングス「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月14日

加（2.5%増）したために、当期純利益は5億4千万円増加（33.8%増）を予測している。

(18) はせがわ（2020年2月5日）

はせがわの業績予想修正は表19に示される。修正の理由について、「売上高については、消費増税の駆け込み需要の取り込みなどにより仏壇仏具事業は堅調に推移しているものの、墓石事業及び屋内墓苑事業の計画未達成の影響が大きく、前回予想数値を下回る見通しでございます。屋内墓苑事業については、昨年11月に新たに受託販売を開始した施設を中心に業績回復を図ってまいりましたが、東京23区内に競合施設が多数開苑した影響が想定以上であったため、当初計画を下回る実績となっております。（中略）また、中国における新型コロナウイルスの流行により、一部商品の供給に遅れが発生する可能性がございますので、業績に与える影響を今回修正予想に織り込んでおります」と述べている³³。

表19 はせがわ業績予想修正

（単位：百万円、円 銭）

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売上高	19,580	18,170	△1,410	△7.2%	-
営業利益	170	△860	△1,030	-	-
経常利益	120	△850	△970	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	△690	△710	-	-
1株当たり当期純利益	1.10	△38.04	-	-	-

出所) 株式会社はせがわ「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年2月5日

注) 2020年3月期連結業績予想数値（2019年4月1日～2020年3月31日）、注として、「当社は、2020年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、前期実績を記載しておりません。」と述べている。

修正の主な理由は、仏壇仏具事業は堅調に推移しているが、墓石事業及び屋内墓苑事業の計画未達成の影響が大きいこと、中国における新型コロナウイルスの流行により、一部商品の供給に遅れが発生する可能性があることなどである。売上高が14億1千万円減少（7.2%減）したために、当期純利益は7億1千万円減少（当期純損失）を予測している。

(19) 西日本鉄道（2020年4月16日）

西日本鉄道の業績予想修正は表20に示される。修正の理由について、「感染症の流行拡大に伴う出控えや、国内外の移動制限、自粛要請等により、バス事業および鉄道事業での旅客人員の減少、ホテル事業での稼働の低下や旅行事業での旅行客の減少等があり、営業

³³ 株式会社はせがわ「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年2月5日

収益および各利益は前回公表数値を下回る見込みです」と述べている³⁴。

表20 西日本鉄道業績予想修正

(単位：百万円、円 銭)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
営業収益	388,800	382,900	△5,900	△1.5%	396,835
営業利益	17,000	16,000	△1,000	△5.9%	20,173
経常利益	14,500	13,500	△1,000	△6.9%	19,273
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,000	6,200	△800	△11.4%	6,330
1株当たり当期純利益	88.82	78.67	-	-	80.28

出所) 株式会社西日本鉄道「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年4月16日

注) 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

修正の主な理由は、感染症の流行拡大に伴う出控え、国内外の移動制限、自粛要請等により、バス、鉄道、ホテル、旅行事業での人員の減少等があったことである。売上高が59億円減少 (1.5%減) したために、当期純利益は8億円減少 (11.4%減) を予測している。

3. 考 察

感染症の拡大の経済環境への影響により、様々な業種の企業は業績予想を修正している。このような修正のうち通期売上高・営業収益の修正を報告している企業は表21に示される。

表21 通期売上高・営業収益の修正

(単位：百万円、%)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
Lib Work	8,200	5,994	△ 2,206	△ 27	6,597
五洋食品産業	2,218	2,044	△ 174	△ 8	2,132
きよくとう	7,000	6,618	△ 382	△ 5	6,679
トランスジェニック	10,500	10,800	300	3	8,674
大英産業	31,329	26,491	△ 4,838	△ 15	30,220
トラストHD	15,000	13,500	△ 1,500	△ 10	13,963
cotta	6,542	6,595	53	1	6,399
力の源HD	30,010	29,000	△ 1,010	△ 3	27,466
岡野バルブ	7,000	6,340	△ 660	△ 9	6,602
ジェイリース	7,050	6,744	△ 306	△ 4	6,082
システムソフト	3,500	3,100	△ 400	△ 11	3,000
梅の花	33,859	30,462	△ 3,397	△ 10	-
ハンズマン	31,650	30,000	△ 1,650	△ 5	31,209
マツモト	2,900	2,820	△ 80	△ 3	2,835
ミスターマックス・HD	122,684	125,696	3,012	2	122,319

³⁴ 株式会社はせがわ「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年2月5日

はせがわ		19,580	18,170	△ 1,410	△ 7	-
西日本鉄道		388,800	382,900	△ 5,900	△ 2	396,835
	最大値	388,800	382,900	3,012	3	396,835
	最小値	2,218	2,044	△ 5,900	△ 27	2,132
	平均	42,813	41,604	△ 1,209	△ 7	44,734

出所) 表3から表20をまとめて筆者作成

注) アイ・ケイ・ケイは四半期連結業績予想値と実績との差異の修正であるため表に含めていない。

表21に示されるように、売上高の減少を予想している企業は、戸建て住宅の Lib Work (△27%)、マンション・戸建て住宅の大英産業 (△15%)、駐車場運営・マンションのトラストホールディングス(△10%)、システム受注・ソフト開発のシステムソフト(△11%)、レストラン・ダイニングバーの梅の花 (△10%) 等の15社である。通期売上高・営業収益の増加を予想している企業は、臨床検査受託のトランスジェニック (3%)、容器・包装梱包資材卸の cotta (1%)、ディスカウントストアのミスターマックス・HD (2%) の3社である。

そして通期当期純利益・親会社株主に帰属する当期純利益の修正を報告している企業は表22に示される。

表22 通期当期純利益・親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円、%)

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績	
Lib Work	462	85	△ 377	△ 82	391	
五洋食品産業	18	43	25	139	26	
きょくとう	218	49	△ 169	△ 78	120	
トランスジェニック	80	△ 450	△ 530	-	202	
大英産業	901	205	△ 696	△ 77	1,259	
トラスト HD	280	△ 60	△ 340	-	197	
cotta	△ 7	31	38	-	225	
力の源 HD	700	△ 220	△ 920	-	615	
岡野バルブ	65	△ 30	△ 95	-	△ 924	
ジェイリース	150	24	△ 126	△ 84	△ 149	
システムソフト	10	△ 410	△ 420	-	△ 1,724	
梅の花	△ 1,025	△ 4,391	△ 3,366	-	-	
ハンズマン	1,595	1,407	△ 188	△ 12	1,540	
マツモト	20	8	△ 12	△ 60	△ 49	
ミスターマックス・HD	1,609	2,153	544	34	1,321	
はせがわ	20	△ 690	△ 710	-	-	
西日本鉄道	7,000	6,200	△ 800	△ 11	6,330	
	最大値	7,000	6,200	544	139	6,330
	最小値	△ 1,025	△ 4,391	△ 3,366	△ 84	△ 1,724
	平均	712	233	△ 479	△ 26	625

出所) 表3から表20をまとめて筆者作成

注) アイ・ケイ・ケイは四半期連結業績予想値と実績との差異の修正であるため表に含めていない。

表22に示されるように、当期純利益の減少を予想している企業は、ラーメン・中華料理店の力の源ホールディングス（△ 920）、レストラン・ダイニングバーの梅の花（△ 3,366）、葬祭関連サービスのはせがわ（△ 710）、鉄道・バスの西日本鉄道（△ 800）等の15社である。当期純利益の増加を予想している企業は、製菓・冷凍食品の五洋食品産業（25）、容器・包装梱包資材卸のcotta（38）、ディスカウントストアのミスターマックス・ホールディングス（544）の3社である。

このように、多くの企業が売上高と当期純利益ともに減少して予想している。特に、売上高については、西日本鉄道が感染症の流行拡大に伴う出控えや、国内外の移動制限の影響を受けて59億円の減少、当期純利益については、梅の花が感染症の影響により売上高が前年同期比62.7%と低迷したこと、店舗閉店等による減損損失16億円を計上したことなどにより、34億円の減少を示している。

五洋食品産業については、売上高は減少しているが、利益は増大している。この関係についてマインドマップを利用して表現すると、図1に示される。

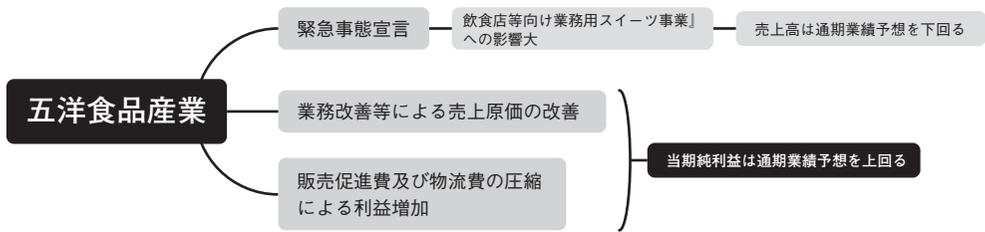


図1 売上高減少・利益増大

売上高については、感染症の影響が大きく、通期業績予想を下回っている。利益については、製造原価の低減により売上原価の改善が図られている。さらに、販売促進費及び物流費の圧縮により、営業利益、経常利益及び当期純利益は通期業績予想を上回っている。

これとは逆に、トランスジェニックについては、売上高は増大しているが、利益は減少している。この関係についてマインドマップを利用して表現すると、図2に示される。

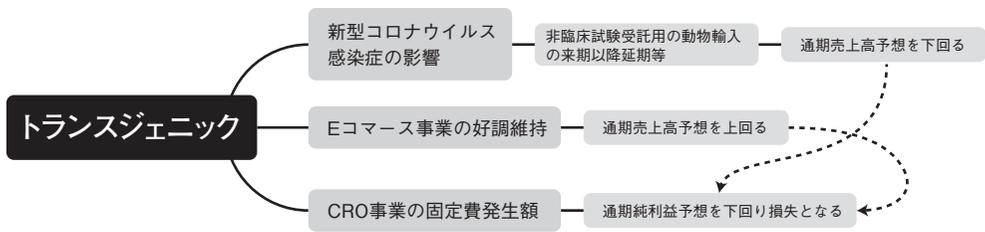


図2 売上高増大・利益減少

CRO 事業では、感染症の影響で、臨床試験受託用の動物輸入が次期以降に延期となり

非臨床試験が計画通り進まなかったことなどから、通期売上高は下回る見通しである。一方、TGBS 事業のうちEコマース事業では、年末商戦以降の好調を維持した結果、通期売上高を上回る見通しとなっている。さらに、CRO 事業では、設備及び人材に対する投資に係る固定費の回収が想定通り進まず、営業利益の見通しが下回ることとなっている。TGBS 事業の営業利益の増加では、CRO 事業の落ち込みをカバーすることはできなかったのである。

おわりに

本研究の目的は、感染症が九州の企業に与えた影響とその対応について明らかにすることであった。そのために、感染症拡大による業績予想の修正を記載している企業について調査している。業績予想の修正を報告している企業は27社であったが、鳥越製粉、グランディーズ、アメイズ、ホープ、三井ハイテック、グリーンランドリゾート、ジョイフルは今回発表予想を未定としている。そして安川電機は国際財務報告基準（IFRS）を適用したため前回発表予想が記載されていないので、ここでは取り上げなかった。今回発表予想を明示している企業19社について、感染症が売上高と当期純利益に及ぼしている影響についてまとめている。多くの企業が売上高と当期純利益ともに減少している。特に、売上高については、西日本鉄道が感染症の流行拡大に伴う出控えや、国内外の移動制限の影響を受けて59億円の減少、当期純利益については、梅の花が感染症の影響により売上高が前年同期比62.7%と低迷したこと、店舗閉店等による減損損失16億円を計上したことなどにより、34億円の減少を示している。五洋食品産業は売上高が減少したが、利益が増大している。逆に、トランスジェニックは売上高が増大したが、利益が減少している。これら2社の感染症が企業に与えた影響とその対応の関係について、マインドマップを利用して示している。

参考文献

- [1] 日本経済新聞社「日経テレコン」(<https://t21.nikkei.co.jp/g3/CMNDF11.do>)
- [2] 新型コロナウイルス感染症対策本部決定（2020）「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」2020年3月28日（同年5月25日変更）
- [3] 経済産業省大臣官房調査統計グループ『商業動態統計速報2020年5月分』2020年6月29日
- [4] 公益財団法人九州経済調査会協会事業開発部「2020年九州経済見通し（緊急改定）～新型コロナウイルス感

- 染拡大の影響」2020年6月2日
- [5] 公益財団法人九州経済調査会『九州経済調査月報』2020年8月号
 - [6] 日本銀行福岡支店「九州・沖縄 企業短期経済観測調査」(2020年6月)2020年7月1日 (<https://www3.boj.or.jp/fukuoka/>)
 - [7] 株式会社 Lib Work 「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月14日
 - [8] アイ・ケイ・ケイ株式会社「2020年10月期第2四半期の連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正、並びに配当予想の修正に関するお知らせ」2020年5月28日
 - [9] 五洋食品産業株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月10日
 - [10] 株式会社きよくとう「特別損失の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」2020年4月10日
 - [11] 株式会社トランスジェニック「特別損失等の計上による通期業績予想の修正並びに役員報酬の減額に関するお知らせ」2020年4月3日
 - [12] 大英産業株式会社「第2四半期業績予想、通期業績予想及び期末配当予想修正に関するお知らせ」2020年5月13日
 - [13] トラストホールディングス株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月12日
 - [14] 株式会社 cotta 「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日
 - [15] 株式会社力の源ホールディングス「2020年3月期連結業績予想の修正、期末配当予想の修正、及び役員報酬等の減額等に関するお知らせ」2020年4月14日
 - [16] 岡野バルブ製造株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月17日
 - [17] ジェイリース株式会社「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月1日
 - [18] 株式会社システムソフト「特別損失（投資有価証券評価損）の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月15日
 - [19] 株式会社梅の花「業績予想値の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」2020年7月13日
 - [20] 株式会社ハンズマン「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年5月11日
 - [21] 株式会社マツモト「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年6月1日
 - [22] 株式会社ミスターマックス・ホールディングス「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年7月14日
 - [23] 株式会社はせがわ「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年2月5日
 - [24] 株式会社西日本鉄道「業績予想の修正に関するお知らせ」2020年4月16日